

ボランティア活動グループ訪問記

オジマシマ



子どもたちの未来を育てるために  
相模原市青少年指導委員連絡協議会



令和の年1月19日(金) けやき会館3階のさがみはら市民活動サポートセンターフリースペースで相模原市青少年指導委員連絡協議会伊藤時彦さんにお話をうかがいました。

魚釣りのゲームなどで若葉まつりに参加され大人気の様子を見て、ほかほかふれあいフェスタ(ほかほかフェスタ)記(り)にも協力をお願いし、昨年10月に開催されたほかほかフェスタに参加いただきました。

青少年指導委員は神奈川県と相模原市から委嘱された「青少年育成活動の推進」「青少年団体の育成指導」を主な職務としています。

定数248人27地区に分かれ各公民館で活動しています。協議会は福祉研修部、事業企画部、広報部の3つの部に分かれ、各部に副会長が置かれ伊藤さんは事業企画部の副会長を務めています。様々な企業や市、地域の催し物に参加、協力しています。



やさしい笑顔の伊藤時彦さん

なで伊藤さんは20年近く関わっています。



◆工作はいろいろなものを作っているのですか？

計算がからなる、子どもたちも多いのりで分らなくて簡単なもので、リールロケット、鳴る鶏などです。リールロケットは羽のロケットに入れてリール袋をひくだけ、尾翼を付けロケットにしています。鳴る鶏は紙「リール」糸を通してつま楊枝で留め、濡れた布で糸を引っ張ると鶏が鳴くような音が出ます。「リール」鶏の絵を付けていきます。

「ロケット」が「リール」鳴る鶏、それはそれはすごいんですよ」と楽しそうに話してくれました。アイデアは自分で考えたり、本を見て考えたり、今では100近い種類があるんですよ、すごいですね。伊藤さんは考えるのが大好きで、特許を取っているものもあるんですよ。

けやき会館の1階に保管されている魚釣りのゲームの道具を見せていただきました。竹で作った竿、魚たちは手書きや雑誌の切り抜きをフニネット加工し、どれも鮮やかにきれいに作られています。水に強い魚たちです。他に田玉、おもちの絵なども混ざっています。これも自分たちで作っています、使用のたび

に洗ったり消毒をしたり、糸を取り換えたりしています。貸し出しもおこなっています。

◆20年近く活動され、またほかほかフェスタに参加して思ったことは？

障がいのある人、車椅子の人たちが多く関わってくれました。障がいのある人たちは工作はできないが魚釣りのゲームならできる。車椅子の親子が楽しんでゲームをやり魚が釣れた時の喜んで、嬉しそうなお顔、また障がいのある大人の人が何度も何度もゲームを楽しむ姿が忘れられません。これからは障害者だけでなく障がい者のためにももっといかなければと思います。これからますます続けていきます。

来年度もぜひほかほかフェスタに参加、協力していただきたいと思います。地域で生活する子どもや若者を見守り、未来を育み、安心安全な地域づくりを支える担い手として、相模原市青少年指導委員は活動していきたいです。

ありがとうございました。(恒藤・小川)



子どもたちに大人気！  
ほかほかふれあいフェスタ2023での魚釣りゲームの様子

相模原市青少年指導委員連絡協議会

URL : <https://www.sagami-portal.com/hp/dnt10148/>